

自然賛歌

折敷畑山—つゆ太郎

妹尾 治人

平成九年のNHK大河ドラマで「毛利元就」が放映されたことにより、毛利ゆかりの地として折敷畑山古戦場を尋ねる人が多くなった。黒折から登るには佐伯線バス停黒折下車、登山口の説明板を読んで標識にしたがつて登る。小積谷(折敷畑合戦の死者をこづみ上げた谷)の入口のところで、右手の送電線の道を登る急な山道に入ると、すぐ足元にヤブレガサ、カンアオイ、アキノキリン草、イナカギク等が出迎えてくれる。やがて鉄塔に到着。その下を潜りさらに三百米程急坂を登り切ったところで、送電線の道と別れて左手の山道に入っていく。この山は地元各講の共有林で、以前は松茸が沢山とれていたらしいが、今では松はほとんど枯れ、コナラ、ソヨゴ、ネジキ、ヒサカキ、ガマズミ、ツツジ、アベマキ等の雑木林になっている。

ピークを越して次の登り坂にかかるところに登山標識がつけられた株立ちの木がある。この木はヤマコウバシ(山香し)の雌木で黒い実が付いている。名前のとおり良い香りがする葉は、秋に枯れるが春までは落ちない。

登山口から約一時間で頂上(四四五米)に到着。そこには「折敷畑山古戦場跡」と書いた大きな標柱(写真参照)が建てられている。



天文23(1554)年6月5日の戦い

頂上から右に行くにつゆ太郎だ尾根筋を間違えないように進む。黄色のテープが目印だが二ヶ所迷いやすい所があるそこは左寄りに行けばよい。野鳥の声をききながら雑木林を行くとやがて登るときに別れた送電線の道と出会う。この付近にはコウヤボウキ(高野山でこの枝を束ねて箒にした)が群生し、秋にはきれいな花を見せてくれる。

五分程行くと、鉄塔と谷筋に行く道の分岐点がある左側の谷筋に降りて行く杉の木があり、昼なお暗い谷でそこにはシシガシラ、キジノオシダ、イワカガネゼンマイ、ベニシダ、イノデ、トウゲシバ等、そのままシダ園にすればよい程シダの群生がある。谷を降り切つて川を渡ると、頂上から約一時間で「つゆ太郎」に到着する。

つゆ太郎の御神体はヘビの住む大きな岩で、祠に御酒、卵、男根がお供えしてある。この種の神社は全国各地にある。男女和合、子

孫繁榮は人間だけでなく、動物、植物全ての本能的な願望であり、自然崇拜の素朴な信仰だと思ふ。

つゆ太郎は、水商売と子宝の神で、なんと、つゆ太郎水の蛇口の真上に不思議なことに、霊験あらたか一株だけ子持ちシダがある。お水をいただいで帰り、名水のコーヒーで商売繁盛誠に有難いことである。この名水を汲むため終日お参りが絶えない。

元就ブームで整備されたこのコースは、植物も動物も多く自然度の高い山であり、また、四季ヶ丘ボボ口の森から登るコースもあり、今後益々登山者が増えるものと思われる。

その昔 戦のありし 折敷畑

(自然観察指導員)



山間にあるつゆ太郎の祠